

巻頭言 「永遠の Yes」

宇野 元

ご存知ですか。ビートルズの「ハロー・グッドバイ」。「君はグッバイと言ひ、ぼくはハローと言う。どうして君はグッバイと言うの？ なんてことだ…… ぼくは言うよ、ハロー！」片思いなのか、甘酸っぱい。波が押し寄せるような曲調に、胸の鼓動が伝わります。

でも相手がつれないのは、もしかしたら、こちらのせいかもしれません。「君が Yes と言えば、ぼくは No と言う。」そんな辻褃の合わないせりふを、ところどころで語っている（歌っている）のですから。「ぼくは Yes と言うけれど、実は No なのかも。」なんてことだ……

Yes。はい。然り。私たちがそう言うとき、実際には、No、いいえ、否、と言っていることがあります。その反対もあります。私たち人間の「Yes」は、一筋縄では行きませんね。曖昧な気持ちや、ためらいを表す場合があるし、嘘を言うつもりがなくても、ほかのことにまぎれて忘れてしまう場合もあります。また、「きっと」や「たぶん」の意味がまぎります。「いまは状況が変わったから、残念だけれど、あの話はなかったことにして。」「ごめんね。あれからもういっぺん、考えてみたんだ。」

神の「Yes」は？ 聖書は証ししています。神の Yes は変わらない。神は二枚舌を使わず、気まぐれでなく、優柔不断ではない。神は考え深く、Yes と言われた。それは永遠の Yes。なぜなら、神は御子において「Yes」と語られたから。「神の子イエス・キリストは、『然り』と同時に『否』となったような方ではありません。この方においては『然り』だけが実現したのです。神の約束は、ことごとくこの方において『然り』となったからです」(2 コリント 1, 19.20)。イエス・キリストを仰ぐとき、神の変わらぬ愛を知ることができます。神が明確に「愛します」とおっしゃっています。何があってもこの事実が覆ることはありません。

新しい年、2020年。ゲーテいわく、われわれの車はどこへ行くのか、だれが知ろう。たしかに。前もって先のことを知ることは誰もいません。けれども、私たちは勇気をもって、そして心強く出発できます。